



でっちぼうこう
丁稚奉公



近江商人余話5

- ◇ 近江商人はまず、丁稚から育てられた。十代で店入りするが、店員の採用は最初は近江の老家においてしばらく使ってみてから、適当な店へ配属する。本家では主人の妻が指導にあたり、その将来性について見当をつけて、採否についての意見を出した。店入りすると二年ほどは見習い期間とし、そこでお眼鏡に合うと丁稚小僧として採用された。奉公人請状には年季を十年と書いた。店によっては丁稚のことを小僧・坊主・子供、などと呼んだ。丁稚の仕事は主人のお供、子守り、掃除などの雑用で、商売の使い走りはまださせてもらえなかった。この期間に行儀、言葉づかい、読み書きソロバンを習う。十六歳ぐらいになると元服式があり手代になる。この頃、幼名を改めて○吉、○松などと命名された。手代の年季は十年ぐらいで、出納、記帳、売買、蔵方、賄方の仕事をした。丁稚奉公十年、手代奉公十年を経て番頭になるのが相場である。
- ◇ 江戸期に言い慣らされた商人像として「主人は大坂、女房は京都、番頭は江州」というのがあるが、番頭は才覚が要求されたので、丁稚のときから厳しくこまれた。

参考 渡辺守順「近江商人」(歴史新書・教育社)



望郷

佐々 真由美 (八日市出身)

私の故郷は八日市で、今までJRの駅がない市で近江鉄道が唯一の足でした。今は八日市駅も近代的に変わり、車両も小綺麗になり、三年間通学、通勤で乗っていた頃とはずいぶん違います。懐かしさはいっぱいです。

生まれ育った所は、いつも美化され、高校野球にしても、なぜか滋賀県の高校を応援してしまいます。八日市は聖徳太子が開いたと聞いています。私の出身中学は聖徳中学でセイトクと読みます。お札にもなった人に由来して少々、誇りに思っています。

今では全国区で有名になった「たねや」というより「クラブハリエ」のバウムクーヘンですが、近江八幡からの進出と聞いて驚きました。

八日市にもまだ私が在住していた頃から「たねや」はあり、高級和菓子のイメージがありました。いちど東京の方に進物に頂いたのが「たねや」のお菓子だった時は、かなり驚いたものです。

歴史的な人物、名所旧跡、近江米、等は紹介されていますが、お菓子は珍しいと思いません。八日市に帰省した時、おみやげに買うことが多くなりました。八日市に帰ることも少なくなりましたが、帰る度に道路は整備され、こちらでも見かける店が並んでいるのはビックリです。家を出て四十年経っていても、故郷は昔のままであって欲しい気持ちがあります。八十八歳になる母が一人で生活していますが、昔からのお付き合いが続いているおかげです。ご近所の方にも感謝しながらも、ついつい甘えてしまっています。

こんな事が出来るのも、ずっとそこに住み続けているおかげかもしれません。もう帰って住むことはないだろうと思いつつも、ひよっとしたら?と考え、思い切る事の出来ない故郷です。

故郷 礼賛



東郷 武男（近江八幡出身）

私の故郷は近江八幡市、いわゆる八幡である。

県中部、琵琶湖の東岸に位置し八幡町と呼称されていたが、一九五四年（昭和二十九年）近隣の町村と合併、また二〇一〇年（平成二十二年）には戦国時代の武将織田信長の居城として有名な安土城のあった安土町と合併して「近江八幡市」が誕生した。

元の八幡町は豊臣秀吉の甥、秀次が築いた八幡城の城下町で、北に八幡城のあった八幡山、西に日杉山がある。

八幡山を囲むように堀（八幡堀といわれる）があり琵琶湖に通じている。八幡堀は昔のまま、今も時代劇によく使われている。

八幡山の頂上から眺めると、町並みは碁盤目のようで、きれいに区画されているのがよくわかる。鍛冶屋町、鉄砲町、薬師町など一目でそれとわかる町名が多くある。

街の中ほど東西に「京街道」といわれた繁華街があり、この道を西に行くと京都に通ずる。この途中に環境大臣の細野豪志氏の実家があり、中ほど池田町には総務大臣の川端達夫氏の生家がある。

私の家は八幡町の西にあり、町名は孫平治町で、羽柴秀次の年寄衆・中村一氏（通称孫平次）の屋敷があった処で、孫平次が孫平治になったといわれる。

町内には寺が多く、仏光寺（通称西方寺、聖徳太子の建立といわれる）、洞覚院（浄土宗、秀次の息女・玉姫の位牌が祀られている）、蓮経寺（日蓮宗、寒行の托鉢）があり、それぞれの境内でかくれんぼやボール遊びをして、和尚さんに叱られたことを思い出す。

（以下次号に）

老年暴走族だより



〔IX 変革〕

平田 文一（近江八幡出身）

老年暴走族も最近めっきり遠出が少なくなってきました。

少なくとも春秋に最低一回は、一泊ないし二泊のドライブ旅行をしていたのですが、今回は五月にOB会で高山行きと七月に京都・滋賀に行った二回です。

この高山行きは往復八百キロの道のりでした。

コースとしては、東海北陸自動車道も全線開通し、東名豊田JCTから東海環状自動車道に入り、中央自動車道を交差し、美濃関JCTから東海北陸自動車道を北上して飛騨清見ICでおり、中部縦貫路を通過して高山に入りました。

今回は、横浜の元同僚が同乗させてほしいとメールがあり三島駅で落ち合い、一人で走るよりは雑談しながらの楽しいドライブになりました。

年一回の再会で宴も盛況で、幹事部屋での二次会も翌日になっての閉会になりました。

翌日は残念ながら雨が降り出し、予定していた観光は中止して即帰る事になり、同部屋の掛川に居住している後輩が同乗させてほしいと言うので、帰路は三人旅になり現役時代の思い出話に花が咲き楽しいひと時でした。

途中ガソリン補給やトイレ休憩などとして、三ケ日から新東名に入り遠州森町PAで後輩

と別れ、長泉沼津IC迄走り横浜の同僚とは沼津駅で別れました。

往路は東名を通り復路は新東名で帰って来ましたが、新東名は距離が約十キロ程短く料金も五百円安くて済みました。今後は、平坦な道が多くカーブも緩やかな新東名を利用したほうが得策だと思えます。

京都の妹夫婦とは義弟の体調を考え近くの温泉でゆっくりした方が良いと思い、四月に来沼して貰い翌日は残念ながら雨模様でしたがハートピア熱海でお昼を食べ、起雲閣を見学し伊東のマリントウンにより、伊東から冷川峠を越えて吉奈温泉に行き「東府や」に宿泊しました。

料金は少し高額だったが部屋、料理とも申し分ありませんでした。部屋は、一棟の屋根になっており独立して廊下でつながっていて部屋は一間はベッドが二個、別の間は畳部屋でゆったりとした佇まいでした。また夕食は一か所でする様になっており各部屋毎に衝立で仕切られ内容は懐石料理で二時間近く掛けゆったりとした晚餐でした。

翌日はあまり天気も良くなかったが、伊豆長岡の葛城山へロープウェイで上がりました残念ながら富士山は見る事ができませんでした。

その日の夕方駿河湾沼津SAに初めて行き、遠くに駿河湾が見える沼津の夜景を眺めながら夕食を済ませて帰ってきました。

翌日は、磐田へ「熊野の長藤」を見に行き、帰りに「ららぽーと磐田」でショッピングして東名に乗り、清水JCTから新東名に入り初めて新東名を走りました。

六月末に滋賀の実兄が入院したとの連絡が入りましたが、生死に関わる事ではなかったので、七月の中旬の3連休に京都の義弟の様子を見がてら往復八百五十キロを走って来ました。

実兄は十七日の火曜日に退院し、後は通院による検査が残っている様ですが問題無さうです。義弟も八月には八十歳になりますが、多少気力が衰えた様に見えるが普段の生活は従来と変わりません。

後期高齢者になると身体のあちこちが弱って来ます。

定期的に検査をして寝込む事無く寿命がある限り元気に過ごしたいと思っております。車の運転も一日二百キロを過ぎると多少の疲れが残る様に感じます。

これからは体調と相談しながら、充分な時間と余裕を持ったドライブを楽しみたいと思っております。

滋賀の味 ⑨ 「鴨すき」



鴨といえば長浜。かつて食通・吉田健一(吉田茂の長男)は「長浜の鴨は鴨の味がする」という名文句を吐きました。他所の「鴨すき」はたいてい合鴨ですが、長浜では真鴨です。長浜市内に約二十軒ある鴨料理店が、自慢の味を競います。

(ただし、ここからは滋賀県人だけが知るヒミツ。琵琶湖は全面的な水鳥の禁猟区、鴨も例外ではありません。長浜の鴨はマガモではありますが、北陸・東北から入ります)

今年も、過半月が過ぎようとしている。時の経つのは早いもので、静岡を離れて一年半になる。今年を振り返ると、まずは、七月二十七日(日本時間二十八日)からのロンドンオリンピック。日本勢は頑張ってメダル数三八個と史上最多を記録した。だが、世界一の金メダルは、アテネ大会に比べ少ないのが少し気になるが、次のブラジルに期待しよう。オリンピックで影が薄かった感がある恒例の甲子園も、静岡代表常葉橘、滋賀代表の北大津いずれも一回戦で敗れている。

少し遡ると、五月二二日、世界一の高さ六三四mの東京スカイツリーが開業し、新しい東京の観光スポットとして賑わっている。

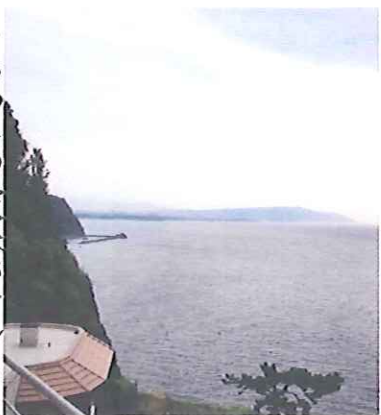
その前日の二一日、日本では今後百年以上先にしか見られない皆既日食があった。静岡市く浜松市辺りが、観測のベストポジションで多くの天文ファンが静岡を訪れている。あいにくの天候で、場所により雲隠れの場所もあった。

この後、六月六日には、金星が太陽面を通過している。さらにオリンピックの後になる八月一四日未明、月による金星の掩蔽(星食)も見られる(途中部分月食もあった)。

さらに遡ると、三月初めの「しゃくなげ会」になる。

実は、この五月二一日の皆既日食観測のベストポジションの一つである焼津市に、前日から訪れていた。翌朝の観測会を兼ねた、学生時代の天文同好会のOB会が焼津グラウンドホテルで開催され、それに参加するためである。転勤、それに伴う転居等で連絡が途絶えていたが、関西へ戻り、ひよんなことから連絡が再開でき、参加することになったのが経緯である。結果的には、焼津市は肝心な時間に雲に覆われていて皆既日食は見る事ができなかった。知人からの写真を含め世紀の天文ショーの一例を・・・

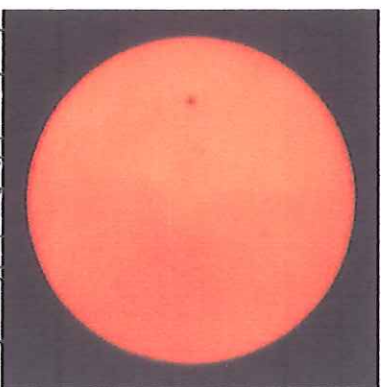
(いろんな意味で、静岡とは縁が切れないようで、これからも宜しく願います)



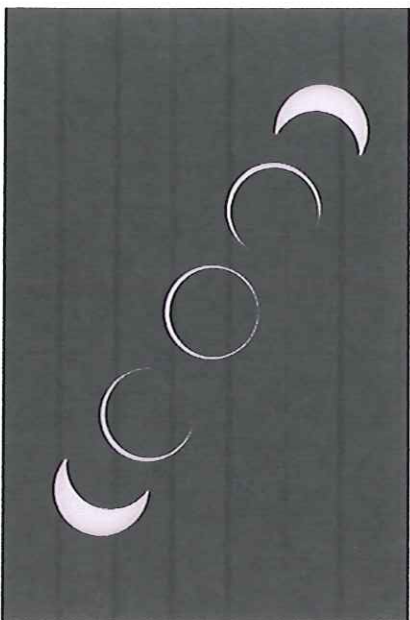
うらめしの曇空(ホテルより)



焼津でのベストショット?



金星の太陽面通過(F氏より)



松本清張氏の「金環食」では、「周りの明るさの影で、中心部では何かが蠢いている」という意味の事を書いている。



近江の名句・名歌 ⑨

また一人遠くの芦を刈りはじむ

あし

たかのすじゆう
高野素十

近江八幡市円山町一带には、五十ヘクタールに及ぶ芦の畑が広がっている。ここが、丸山ヨシと呼ばれる良質のヨシの産地。ヨシはアシのことだが、アシ（悪し）の音を嫌ってヨシ（善し）と呼ばれる。素十の名句、芦を刈る湖畔の大空間をとらえた。

滋賀県の文化施設7

琵琶湖周航の歌資料館



♪われは湖の子・・・♪、で知られる「琵琶湖周航の歌」は、大正六年夏、今津の宿で生れました。旧制三高ボート部に所属する小口太郎がこの作詞を披露し、当時学生間で人気であった「ひつじぐさ」の曲に載せて唄ったのが始まりです。興味深い関連資料を、豊富に展示しています。

5

- ☆ 滋賀県高島市今津町中沼一―五―七
- ☆ JR近江今津駅下車 徒歩三分
- ☆ 北陸自動車道木之本ICから国道三〇三号、同一六一号 約三〇分
- ☆ 九・〇〇―一七・〇〇 月曜休館
- ☆ 料金 無料
- ☆ お問い合わせ 0740-22-2108



次回例会予告

日時 二〇一三年三月一〇日（日） 一二時三〇分より
会場 三島市民文化会館 二階和室
会費 二〇〇〇円

滋賀県にゆかりのあるお知り合いをご紹介ください



本会報は次回第一〇号（二〇一三年三月）をもって、休刊の止むなきに至りました。五年間にわたり、ご愛読、ご寄稿いただき感謝申し上げます。

次の原稿締切りは来年二月二十日です。ふるってご投稿ください。
（発行所）〒410-0874 沼津市松長九二一―六―一〇〇三 三上八郎